



**旧・養田川通水式  
せせらぎ小経完成  
(2002年4月)**





**旧・養田川通水式  
せせらぎ小経完成  
(2002年4月)**



## エコタン191を取得 (都市での炭焼き装置)



地元・播磨町の巴製罐が、ま  
ちのなかで炭をつくるために  
製造したエコタンは、エネル  
ギーをほとんど使うことなく、  
炭がくれる装置。



加古川流域最下流にあたるこの場所を拠点に、  
加古川129の支流の水質浄化の取り組みをはじめました。



## 炭を使って水質浄化に取り組む

## 炭焼き講習会（2002年12月以降随時）



- ・炭焼き装置の取り扱いについて講習会を実施

## リバークリーンエコタン銀行の運営

エコ炭明細

年月日	摘要(特記)	お引出し	お入れ	お引出し	お入れ	残高
12		エコ炭	エコ炭	エコ炭		

口座番号 \_\_\_\_\_ 様

<エコ炭>  
普通預金通帳

リバークリーン/エコ炭銀行

4		エコ炭	エコ炭	エコ炭		
3		エコ炭	エコ炭	エコ炭		
2		エコ炭	エコ炭	エコ炭		
1		エコ炭	エコ炭	エコ炭		

・支店開設の支援（上流部・下流部）



※印のないものは無効です。  
※竹炭・廃材のうち1/3はエコ炭銀行に納める。  
※炭1kgを1エコ炭とする。

## 喜瀬川(播磨町)での試験埋設 (2003年12月)



- ・エコ炭銀行播磨支部を開設
- ・東播磨県民局との共同作業により竹炭を試験埋設。

## 加西研修所の開設 (2004年5月)



**上流から下流まで 川がつかなく流域の交流**

全長九十、百二十九の支流を網めて、瀬戸内海に注ぎ込む加古川。その最下流の町、加古川市美田地区の「美田町内会まちづくり委員会」は、ふるさとの川をきれいにしようと、浄化作用のある竹炭を水中に入れ、水質浄化に取り組みしています。

この活動を新聞で知ったのが、上流の吉川町に住む田中秀見さんです。所有する竹林の竹を提供したことから、上流と下流の交流が始まりました。今まで縁のなかつた下流に住む人たちと仲良くなつて、川への意識が変わりました。と田中さんは語ります。

同委員会と上・中流域との交流の輪はどんどん広がりました。平成十五年には「リバーグリーン・エコ炭銀行」を設立。竹の提供者、炭を焼く人、銀行の三者で炭を分配し、その炭を運賃と同様、エコ炭通帳に積み立てるシステムです。「作った炭をすべての支流に入

れようと働き掛けています。一度炭を入れると地域住民の河川環境への関心が高まって、自発的にきれいにしてくれるんです。と代表の橋本達彦さん。昨年には、炭を焼く人を養成する研修所も加西市に開設。二台の炭焼き機や作業器具がそろった研修所には、加古川水系のさまざまな流域の人たちが炭焼きに訪れます。研修所では炭焼きのほかイベントをしたり、地域の情報を交換したり、多彩な交流の場になっています。

●きれいに竹を切りそろえて炭焼き機に入れると、4時間ほどで炭になります



- ・毎月2回炭焼き講習会を開催
- ・国・県の公共事業で発生した不要竹を炭化し再利用

## 別府皿池&炭フォーラム（2005年2月）



- ・ 皿池クリーンキャンペーンの開催
- ・ 第3回炭フォーラムの開催

